読書尚友

～読書をして昔の賢人を友にすること～

古典60選 …グループ代表 阿部伸一郎…

76／60＋α

『こころ』　夏目漱石

1867～1916

こころ

累計720万部。わが国で最も読まれ続けている小説、『こころ』。著者は、言わずと知れた夏目漱石。江戸で名主（みょうしゅ＝庄屋）を務める名家に生まれ、東京帝国大学卒の眉目秀麗な文豪。平成の世には、紙幣の肖像にもなる。そんな経歴から順風満帆な人生を送った人物と思われがちだが、実際は違った。

漱石は、明治維新の前年慶応3年に現在の新宿区に8人兄弟の末っ子として生を受けた。時、正に江戸幕府崩壊前夜。名主制度は有名無実化し生活は楽ではなかった。そんな折生まれた漱石は、「いらない子」扱いを受け、生後4か月で里子に、1歳になると別の家に養子に出された。その後養夫妻が離婚し9歳で再び実家に戻る。こんな環境下に育つも難なく東大へと進む。卒業後は英語教師となり松山、熊本などに赴任したのち、33歳の時に文部省命で渡英するも、神経衰弱に陥り何の成果も残せず帰国。その後は、小泉八雲の後任として東大講師に就くが不評でうつ状態に陥る。そんな漱石を見かねた親友の高浜虚子は、病気治療のために小説を書くことを進めた。こうして国民的作家、夏目漱石が誕生する。

漱石が、この著を記したのは、明治の価値観を否定する空気が蔓延する大正3年、いわゆる大正デモクラシーの時代であった。文壇においては、志賀直哉や芥川龍之介等の白樺派と呼ばれる若手がデモクラシーの旗を振ったに対し、丸っと明治を生きた鴎外や漱石はその対極に位置していた。この著を書く2年前、明治天皇が崩御し元号は大正に変わった。その明治天皇の崩御に伴い乃木大将が殉死し、その理非をめぐり世代間で世論は二分した。こうした時代背景の中、漱石は人のこころテーゼに、時と共に変化する価値観と、時代を問わず誰しものこころに存在する醜さ、いやらしさを敢えてありふれた恋愛物語の中に落とし込み、この作品を完成させた。

夏目漱石

ストーリーの肝は、こうだ。主な登場人物は「先生」「静」「K」そして「私」の4人。幼馴染の先生とKは、東京で静と母が暮らす家の下宿生であった。ある日、Kは先生に静への恋を打ち明ける。それを聞いた先生は嫉妬心から自分も静を好きになっていたことに気付き、Kより先にと静の母に結婚を申し出た。彼女は快諾する。後ろめたさからKに言い出せないでいると、母からKに伝えてしまったことを聞いた。直ぐに謝らねばと思った矢先Kは自室で先生宛の遺書を残し、命を絶ってしまった。取り返しのつかないことになったと、ぶるぶる震えながら遺書を開くと、ただ「己の未熟さ故死ぬ」とだけあり、自分と静のことが書かれていなかったことに安堵し、敢えて人目に付き易い位置に遺書を置いた。卒業後、先生は静と結婚するが、Kを死に追いやった罪の意識にさいなまれ続けた。そんな折、乃木大将が殉死する。遺書には35年前の西南の役で犯した失態以降常に死に場所を求めていたとあった。新聞でその遺書を目にした先生は、明治の価値観と共に殉死することを決意し、事の一部始終を記した長文の遺書を帰省中の私に送り届けた。

この小説を単なる恋愛物として読んだら陰気で何の面白みのないもので終わる。乃木大将の殉死と明治の人間が抱いた価値観。そして、いつの世も変わらぬ人間の心に潜む二面性、エゴイズム、葛藤。そこに焦点を置いて読むと全く別の小説になる。

わが国史上最も読まれていることに納得する筈だ。

せんとらるライナー食堂車

AMBER KAPI アンベル・カプ

今年2月神之木橋の麓に、小さなトルコレストランがオープンした。オーナーシェフのカープゾグル・イブラヒム・ハリルさん（日本人には到底覚えられないので、イボさんのニックネームで呼ばれている）は、恵那市出身の樋口紗彩さんと2018年に結婚して以来日本に住み、一昨年恵那に越してきた。

トルコ料理は、古くから世界三大料理の一つに数えられている程、ヨーロッパでは評価の高い料理だ。焼き物を意味するケバブ料理が中心で脂が落とされていて日本人の口にもよく合う。イボさんと紗彩さんに話を聞くと残念ながらトルコ料理は、まだまだ日本では馴染みが薄くドネールケバブが全てと思われている節がある。しかし、世界三大料理と言われるだけあって凄く奥の深い料理であることを知ってもらいたいとの思いから、お店を開いたと言う。その思いはランチメニューに現れている。現在は人出も足りないため、日替わりの1種類のみだが、一か月のうちで同じ料理は提供しない様に務めていると言う。トルコ料理とイボさんのレパートリーが豊富であることの証と言えよう。

カープゾグル一家

← テイクアウト限定! ドネルケバブロール

世界から集めたノンアルコール

そして、ここの最大の特徴は、ハラールの認定を受けているお店という点だ。ハラールとは、イスラムの教えで許された食材のみを使うという意味である。許されない代表的な食材は豚肉と酒類だ。お酒好きな人には抵抗があるかも知れないが、休肝日に利用してもらいたい。また、恵那にいながらイスラムの勉強にもなる。

それともう一つ。イボさんはトルコ南部の大都会ガズィアンテプ（Gaziantep）と言うまちの生まれ。このまちは、ユネスコのガストロシティ（食い倒れのまち）に認定されトルコでも一目置かれる存在だ。

是非、トルコ料理の本場中の本場で育ったイボさんの味をお楽しみあれ。

住所：恵那市大井町 644-3
TEL　：050-8887-2734
定休日：水曜日
営業時間　昼食　11：00 ～ 14：00
　　夕食　17：00 ～ 21：00
　　日曜日のみ
　　朝食　9：00 ～ 10：30
　　昼食　11：00 ～ 14：00
　　夕食　休み
ﾗｽﾄｵｰﾀﾞｰ　30分前　ﾃｲｸｱｳﾄ可

売上の10%～20%を被災地に送金！

イボさんの出身地は、今回の地震の震源地に程近い。幸いイボさんの家族は全員無事だったが、多くの仲間を亡くした。イボさんは被災した故郷の仲間を少しでも助けたいとお店の売り上げの10～20パーセントを現地に送金している。

是非、ご支援をお願いしたい。

エルトゥールル号遭難事件と日本人イラン救出劇

1890年（明治23年）オスマントルコ帝国からの親善訪日使節団を乗せたエルトゥールル号が台風に遭遇し和歌山県沖で沈没、600名以上の乗組員が海に投げ出され大半は命を落としたが、69名が島にたどり着くと言う出来事があった。命からがら岸に流れ着いた彼らを発見した島の住民たちは総出で救助に当たり台風で出漁できず食料の蓄えもわずかだったにもかかわらず、非常用のニワトリまでを提供して生存者を介抱した。この出来事は現地でも大きく報道され日本への感謝が相次いだ。その後も一世紀以上に渡って小学校の教科書に載りトルコ人なら知らない人がいない程である。

そして、そのエルトゥールル号遭難事件から95年後の1985年。イラク・イラン戦争のさなか、イラクのサダム・フセイン大統領は72時間後にイラン領空を「戦争空域」とみなし、民間航空機も全て撃ち落とすと宣言した。当時、イランには215名の日本人が残されていた。日本政府は邦人救出のため自衛隊機を向かわせるべきであったが、海外派遣は禁止されていると飛ばすことをためらった。また日本航空からも危険を理由に断られた。

そうこうしているうちに刻々とタイムリミットが迫る。その時であった。空襲警報の鳴り止まないテヘラン空港に姿を現したのは、二機のトルコ航空の飛行機であった。今こそ、エルトゥールル号遭難時の恩を返す時と、危険を顧みず救出機を飛ばしてくれたトルコ政府、トルコ航空乗務員のお陰で215名全員は無事帰国の途についた。

そんな友好国トルコは、今大地震で悲惨な状況にある。「食堂車」で紹介したイボさんの故郷も大きな被害を受けている。イラン日本人救出劇の恩を忘れずにいてもらいたいとの思い、そして微力ながらお見舞いの意を届けたいとの二つの思いから、この文章を記している。

阿部 伸一郎

せんとらるライナー待合室

？ 湖のスイレン ？

湖にスイレンの花が落ちました。スイレンは1分経つと2倍に増える。湖がスイレンでいっぱいになるのに48分かかる。

では、スイレンが湖のちょうど半分になるのに何分かかるでしょう。

【75号の解説】

100枚のコインを10枚と90枚の2つの山に分け、10枚の山のコインをすべてひっくり返す。10枚と90枚の2つの山に分けた際、10枚の山のほうに表を向いているコインが3枚あったとすると、90枚の山のほうには7枚の表を向いているコインがあるはずです。

そこで10枚の山のほうのコインをすべて裏返すと、表を向いているコインが7枚と裏が3枚となり、90枚の山と表を向いているコインが同数になります。

せんとらるライナー乗務員室

建設特定技能に認定されました!!

愛する故郷を離れ、遠く異国の日本で縁あってセントラル建設へと来てくれた実習生達。日本で培った技術と知識を故郷へと持ち帰り活かす為、日々粉身の想いで励み、学びました。

この度、その努力が実を結び、建設特定技能に認定されました。

1期生　ズオン

3期生　チュン・ヒエウ

上司からの一言

何事にも興味を持ち、日々成長している姿が頼もしいです。